

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報（平成 24 年度）のポイント

1. 決算ベースの債務残高の推移

- 平成 24 年度期首の債務残高は、30 兆 3,244 億円であったが、期中に 1 兆 5,199 億円の債務を引き受け、3 兆 9,230 億円の返済及び 2 兆 8,660 億円の債券発行を行った結果、期末の債務残高は、30 兆 7,983 億円。

【本文 P1 参照】

平成 24 年度の債務残高の推移		平成 24 年度	[単位：億円] (参考) 平成 23 年度
期首債務残高	A	303,244	306,799
債務引受額	B	15,199	4,807
債務返済額	C	39,230	34,104
資金調達額	D	28,660	25,637
債券発行差額償却による簿価増	E	109	105
期末債務残高	A+B-C+D+E	307,983	303,244

注 1) 上記金額には、道路承継未払金（平成 23 年度末 88 億円、平成 24 年度末 238 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

2. 資金調達の状況

- 平成 24 年度資金調達実績は、2 兆 8,660 億円（政府保証債 2 兆 2,860 億円、財投機関債 5,800 億円）。
- 金利上昇リスクの軽減に向け、長期債（10 年）・超長期債（10 年超）の発行を行ったほか、資金調達の多様化の観点から、中期債（4 年債）を発行。
- 有利子債務の平均資金コストは、期末時点で 1.49%。

【本文 P2~3 参照】

3. 債務返済計画と実績の対比

- 平成 24 年度期首債務残高は 30 兆 1,648 億円であった。平成 24 年度は、収支差 1 兆 2,489 億円、会社からの引受債務 1 兆 5,323 億円の結果、平成 25 年度期首債務残高は 30 兆 4,482 億円となり、平成 24 年度期首に比べ 2,834 億円増加したが、計画に対しては 6,876 億円下回った。

債務残高が増加した理由は、平成 24 年 4 月の新東名高速道路の開通に伴い会社から債務（1 兆 261 億円）を引き受けたことなどが要因であり、債務残高が増加することは、計画上も見込んでいる。

債務返済における収入と支出の概要は以下のとおり。

【本文 P4～6 参照】

【債務返済における収入と支出の主な概要】

- ① 会社からの引受債務：実績値 1 兆 5,323 億円 対計画値 △5,929 億円

高速道路利便増進事業のスマートインターチェンジ事業や災害復旧事業について、計画上、平成 24 年度に全額引受けることにしていたところ、実際には個々の事業の進捗や災害の発生状況を踏まえて引受けることになること、また平成 24 年度内に開通を予定していた大阪府道高速道路淀川左岸線を含む 4 路線の開通が平成 25 年度にずれこんだこと等による減

- ② 収支差：実績値 1 兆 2,489 億円 対計画値 +506 億円

・収入：有料の利用が堅調に推移したことによる貸付料収入の増

(収入の実績値 1 兆 8,154 億円 対計画値 +874 億円)

・支出：平成 23 年度に計画以上の資金調達が生じた影響による支払利息の増や、会社からの引受債務が計画を下回ったこと及び貸付料収入が計画を上回ったことによる消費税の還付の減等

(支出の実績値 5,665 億円 対計画値 +368 億円)

【本文 P6 別添資料 P3～25 参照】

平成 24 年度における債務残高の計画と実績の対比（概要）

[単位：億円（消費税込み）]

	合計	全国 路線網	首都 高速道路	阪神高速道路		本四 高速道路	一の路 線
				阪神圏	京都圏		
債務残高（平成 24 年度期首）							
計画(A) (注1)	302,089	214,795	41,150	29,409	1,100	15,276	358
実績(B)	301,648	214,497	41,154	29,386	1,129	15,175	308
差額(B) - (A)	△ 440	△ 298	5	△ 23	29	△ 101	△ 51
会社からの引受債務 (注2)							
計画(A)	21,252	18,578	1,349	1,216	1	83	24
実績(B)	15,323	13,528	1,219	534	1	37	3
差額(B) - (A)	△ 5,929	△ 5,051	△ 130	△ 682	0	△ 46	△ 21
収入							
計画(A)	17,280	12,115	2,421	1,616	52	1,016	60
実績(B)	18,154	13,028	2,421	1,532	18	1,084	71
差額(B) - (A)	874	913	0	△84	△34	68	10
支出							
計画(A)	5,297	3,369	992	658	33	236	9
実績(B)	5,665	3,648	1,031	710	19	249	8
差額(B) - (A)	368	279	39	52	△14	13	△1
収支差							
計画(A)	11,982	8,746	1,429	958	19	780	51
実績(B)	12,489	9,380	1,390	821	△1	835	63
差額(B) - (A)	506	634	△39	△137	△20	55	12
債務残高（平成 25 年度期首）							
計画(A)	311,358	224,627	41,070	29,667	1,082	14,579	331
実績(B)	304,482	218,644	40,983	29,098	1,130	14,378	248
差額(B) - (A)	△ 6,876	△ 5,983	△ 87	△ 569	48	△ 202	△ 84

注 1) 平成 24 年度期末時点の業務実施計画における実績見込値です。

注 2) 「会社からの引受債務」では、機構が国等からの出資金及び補助金を財源として高速道路会社に貸し付けた無利子借入金に係る債務は除いています。

注 3) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

※ 債務返済計画では、決算と数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には決算数値を債務返済計画ベースに修正した数値を用いています。例えば、未償還残高を計算する際には、現金、未収金・未払金の扱いが異なります。また、個別項目においても、消費税、減価償却費の扱いなどが異なります。

4. 機構と会社を合わせた債務残高及び債務返済状況

- 「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）」において公表することとされた、機構と会社を合わせた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況は、別添資料 27 ページ（債務返済計画ベース）及び別添資料 36 ページ（決算ベース）に記載。

5. 路線別営業収支差（高速道路会社情報の総括）

- 平成 24 年度の営業収支差（料金収入－会社の管理費）は、6 社合計 1 兆 5, 742 億円。
【本文 P10 別添資料 P46～50 参照】

平成 24 年度の高速道路会社別営業収支差

[単位：億円（消費税抜き）]

	料金収入 A	管理費 B	営業収支差 A－B
東日本高速道路(株)	6, 421	1, 953	4, 468
中日本高速道路(株)	4, 973	1, 501	3, 472
西日本高速道路(株)	5, 840	1, 753	4, 086
首都高速道路(株)	2, 557	606	1, 950
阪神高速道路(株)	1, 704	397	1, 306
本四高速道路(株)	639	181	458
計	22, 136	6, 394	15, 742

注 1) 料金収入と管理費は会社の損益計算書上の値です。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

注 3) 西日本高速道路(株)の料金収入及び管理費は、機構の資産ではない関門トンネルの料金収入及び管理費を除いた値となっています。

6. 道路資産の保有及び貸付状況

- 平成 24 年度末の保有・貸付延長 10, 014km
うち 供用区間 9, 706km
(新規供用による 219. 3km の増)
(西富士道路の無料開放による 6. 8km の減)
うち 新設区間 307km

【本文 P13 別添資料 P65 参照】